

# 大腸癌の治療のため受診中あるいは受診経験のある 患者さんまたはご家族の方へ

## 臨床研究に対するご協力をお願い

愛媛県立中央病院では、上記の病気で受診された方の検体や診療情報(カルテ情報)を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。

本研究への協力を望まれない場合、研究についての詳しい情報を希望される場合などは、その旨、以下の「問い合わせ先」までご連絡をお願いします。本研究への協力を望まれない旨のご連絡を頂いた場合は研究対象からは除外させて頂きますので、検体や診療情報は利用されず、また他の研究機関への提供も行いません。

**【研究課題名】** 閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後のロボット支援腹腔鏡下手術の有用性に関する後ろ向き研究

### 【研究の目的】

大腸癌に対するロボット支援手術は腹腔鏡下手術と比べて性機能(射精や勃起)や排便排尿機能の温存の点で優れているため、当院では積極的にロボット支援手術を行っています。一方、ロボット支援手術には触覚がないことから繊細な力加減が難しく、腫瘍が大きい場合や炎症が強い場合には腹腔鏡下手術と比べ手術が困難になることがあります。大腸癌による腸閉塞に対し内視鏡による大腸ステントを留置された方の場合、腫瘍に加えステントの大きさや重さ、さらに腸閉塞による腸炎が原因で周りの組織が脆弱になることから、通常よりも手術が難しくなることが多く、より繊細な手術操作が必要となります。当院ではロボット支援手術について豊富な経験があり、大腸ステントを留置された方に対しても十分な検討の上でロボット支援手術、腹腔鏡下手術、開腹手術のうち適切な術式選択を行っています。今回の研究の目的は、大腸ステントを留置された方のうち、ロボット支援手術と腹腔鏡下手術を施行された方の、手術時間、出血量、術後経過(術後合併症や術後在院日数)などの治療成績を比較し、ロボット支援手術の安全性を調査することが目的です。

### 【対象となる方】

大腸癌の患者さんで、2012年4月1日から2024年12月31日の間に当院で閉塞性大腸癌に対し大腸ステントを留置後にロボット支援あるいは腹腔鏡下腫瘍切除をうけた方

### 【使用する検体・診療情報】

カルテ情報:手術時の年齢、BMI、既往歴(糖尿病、慢性呼吸器疾患、慢性肝疾患、慢性腎疾患、心疾患)、術前のヘモグロビン値、血小板数、アルブミン値、クレアチニン値、腫瘍マーカー(CEA、CA19-9)、腫瘍の場所、術前治療の有無および内容、術式、手術時間、出血量、大腸ステント留置期間、術後合併症(縫合不全を含む)、外科的剥離面陽性率、術後在院日数、術後食事再開まで日数、腫瘍の病理学的病期、病理学的組織型

**【研究期間】** 臨床研究審査委員会承認日から 2026 年 12 月 31 日

**【個人情報の取扱い】**

使用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定できる個人情報は削除します。  
また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

**【研究責任者】**

愛媛県立中央病院  
消化器外科 部長 永岡智之

**【問い合わせ先】**

松山市春日町 83 番地  
愛媛県立中央病院  
消化器外科 部長 永岡智之  
電話 089-947-1111 FAX 089-943-4136